

# 「飢え乾くものへ」

～キリストを証するSpirit～

使徒 1:3～8

## ■ トラの赤ちゃんと猫の話

1匹のトラの赤ちゃんを雄の野良猫と一緒に育てたらどうなるか、ある大学が実験をしました。トラと一緒に生活をはじめた野良猫は赤ちゃんといえども自分より大きなトラに対し先ず強く見せようといじめました。トラは野良猫より大きいのですが赤ちゃんなので猫の攻撃には勝つことができずに逃げるといった行動を繰り返します。そんな生活がありその後のトラはどうなったと思いますか？体も大きくなり2歳になったトラは相手が猫であればどんな小さなものであっても怯え逃げようになり、いつも隅っこにいく弱いトラになったのです。

## ■ タカと鶏の話

ある日、男の子が森で1つの卵を拾って持ち帰り、家で飼っている鶏と一緒に卵を育てます。そしてヒナがかえり見た目もかわいいヒヨコのようにでしたが後にそのヒナは鶏ではなく、鷹になりました。ですがその鷹は他の鶏と一緒に生活を続けていたので自分の事を鶏だと思い本来立派な羽を持ちながら飛ぶこともできませんでした。ところがある日、鷹は自分に似た別の鷹がえさ場に現れ盗み食いして飛んで逃げていく姿を見たのです。その後、自分に気付いた鷹は飛ぶようになったのです。

## ■ 全てを捨てた弟子たち

イエスキリストに出会った弟子たちは「私についてきなさい」といわれ全てを捨てて決意してついて行きました。ペテロもユダもイエス様に会い全てを捨ててついて行った者でした。しかし、その時の決意とは裏腹に弟子たちは3年間イエス様といたにも関わらず右往左往してなかなか変わらなかったのです。ですが、あのペンテコステ（聖霊降臨・イエスの復活、昇天後に集まって祈っていた信徒たちの上に、神様からの聖霊が降ったという）の出来事から彼らは変わりました。

一体、何があったのでしょうか？

私たちの人生も「こうする！」と決意してもその通りにはなかなかできません。私たちの人生の中で、猫と生活した赤ちゃんトラや鶏と生活した鷹のように小さな時や育ってくる今日までの環境の中でだんだんとわからなくなってきてしまい自分が何なのかも失われていきました。神様はそんな私たちが本来の自分ではない生き方やふるまいをしている姿を見て嬉しいわけがありません。弟子たちがイエス様に会った時、目の前で死んだ人が生き返り目の見えない人や耳が聞こえない人が癒される奇跡を毎日経験しました。それなのに3年の間に彼らが話していたのは「誰が正しいのか。誰が偉いのか。誰がイエス様の隣に座るのか。」だったのです。彼らの最初の決断は日々揺れ動いていたのです。それでも「なぜあなたたちはわからないのですか」と言いながらイエス様はこの弟子たちを通してたくさんの奇跡を起こしました。なぜイエス様は、こんな彼らや私たちに大事な事を託し導くのでしょうか。あなたが神様だったらあなたに任せられるでしょうか？

全てを捨てた弟子たち

↓  
要 求

↓  
自 己 義  
↓  
理 解  
↓  
不 従 順

本来 要求とは自分が決断することで進められるもので相手に求めれば求めるほど得られることはありません。すべてを捨ててイエス様について行った弟子たちは人として来たイエス様に多くの事を求めました。やがて要求は自分が正しいという自己義へと変わっていきまます。自己義になった弟子たちは自分が理解し納得できない事をイエス様に「なぜですか？」と質問するようになりましたが、神様との目線が違うので納得できません。神様が答えてもそれはやがて「自分が理解されない」という感情になってしまい、神様のこうしなさい！という言葉にはいつも意味がある事を信じず従えませんでした。ユダがそうでした。彼は変わる事ができず死に至りました。ペテロも同じでしたが最後に彼は自己義を捨て神様から奇跡を与えられたのです。

## ■ ①あなたの罪を認識させる

私たちは自己義（自分が正しいという思い）になります。神様は私たちが罪人である事を認識させたいのではなく、あなたの罪がわかることで過去の痛みを取り去り聖霊の働きにより優しくなれる事を信じているのです。

## ■ ②あなたに確信を与える

弟子たちには確信がありませんでした。欲求を満たすために相手を傷つけ悩んでは失敗の繰り返しでしたがペンテコステで聖霊の力により理解ではなく確信を得ることで向きを変えたのです。神様は私たちを変えようとしています。ですから確信を得ることができるよう求めて探してみてください。

## ■ ③力を受けると目線が変わる

あなたのままで頑張るのでは目線は変わりません。聖霊の力により目線が変わった弟子たちは信じる事、愛すること、受け入れること、そして助けることができるようになったのです。

## 最後に

私たちの人生は問題がたくさんあります。あなたを攻撃し責めてくる人がいるでしょう。時に神様に「なぜこんな目にあうのですか？」と言いたくなりますが、でも私たちは神様に何があってもついて行くと決めました。そしてどんな境遇にあっても満ち足りることを知っています。神様はこの世の理不尽に思える中で福音が届くしくみを行うのです。神様、私たちの要求や自己義を取ってください。罪を認識させてください。剣を持って相手を滅ぼす者は剣を持って滅びるのです。あのペンテコステの日のように聖霊さまの力が注がれますように。

(要約者:西崎 真由美)

(2018年5月20日)